医師・看護師・介護職員の大幅増員を

日本医労連増員闘争ニュース

第 94 号
2010 年 5 月 19 日
日本医労連増員闘争本部
TEL:03-3875-5871
FAX：03-3875-6270

神奈川・看護のつどい

５月１６日、「神奈川県医労連看護のつどい」を横浜市従会館で開催しました。

「元気に働き続けよう　みんなの力で」をテーマに、田中千恵子中央執行委員長が記念講演。看護師増やせの運動の始まりが２２年前。外に出て運動したことで、大きな世論となったこと、今の異常な働き方にストップをかけなければならないこと、夜勤そのものが有害であるため、休みをきちんと与える、勤務間隔をあけることの重要性を強調。今後の運動について、「国際基準並みの働き方をめざそう。要求を出し、組織を増やして、現場から頑張ろう。闘えば確実に変わる」と訴えました。

講演後は職場交流を行いました。「二交替勤務を導入しようという動きが強まっているため学習会を計画」「時間外勤務を申請しないスタッフが多く、きちんと申請しようとキャンペーンを展開する」「安全衛生委員会でも夜勤問題を議題にしている」「組合説明会を１時間、新人研修の中でやっており、今年も殆どが加入した。親しみやすい組合新聞の発行を行っている」「希望を捨てずに、労働条件をよくしていこうと頑張っていきたい。」などの発言がありました。

つどい終了後、桜木町駅前で署名宣伝行動を 30 数名で行い、340 筆の署名を集約しました。

石川・県に要請

“看護師不足”で、認識が一致

石川医労連と石川民医連は、5 月 14 日「看護職員の増員・確保に関する要請」を行いました。

医労連からは広瀬委員長・馬渡書記長はじめ、民医労、済生会労組が参加し、要請行動を行いました。県側は医療対策課課長、課長補佐が対応、県側の取り組みと実績を説明しました。

「第 7 次需給見通し」については、「具体的な数字は出せないが、全体需要数は増えている。夜勤体制の増、育児休暇、短時間勤務、残業軽減、在宅部門での看護職の需要増など、各医療機関が需要数の増加分を見込んでいる」と説明。県として「現時点では、『看護師不足である』との認識を持っている」と表明しました。

1990 年代の看護師不足のナースウェーブ時代以来の認識変化で、この間の私たちの増員闘争で世論を変化させてきた成果だと参加者で確認しました。

千葉医労連

千葉医労連は、5 月 15 日午後 3 時から、津田沼駅で「看護の日行動」を行いました。

「看護師の増員を求める千葉県実行委員会」とともに、署名・宣伝行動を行い、220 筆の署名を集めました。

全医労、勤医労、東葛分会、成田日赤、自治労連、民医連、看護を良くする会などから 17 名が参加。かわるがわるマイクを持って、実態を訴え、署名を依頼しました。

25 日は国会へ

「看護職員の労働実態調査」が「看護実践の科学」６月号に掲載されました。

岡山のニュースを添付します。